

ジェネラルサントスのホテルから車で約1時間半のコロナダル市とレイクセブ町の中間で、タウォルの人達と待ち合わせをしました。その場所は、近くでは水牛に鋤を引かせて田圃を耕しているお百姓さんがいました。私が子供の頃の風景とほとんど同じです。違うのは鋤を引いているのが牛でなく水牛であることぐらいです。



タウォルの人達はジープニーに満載でやってきました。一緒にタラヒク村を見学に行きます。未舗装の道を約30分程度川に沿って(約10km)下ります。タラヒク村では苗の畑とミミズの養殖場を見学しました。



ミミズにはいろんな種類がいて、肥料として使用するのにはオーストラリア種とアフリカ種が適しているとのことでした。この種は暑さに弱いので見学したときはいみませんでした。涼しくなったら購入して増やして使用するとのことでした。

PPF農業専門家ニックの案内で、タウォルの人達とゴムの林の見学。5から6mに成長しています。径は10cmくらいになっています。ゴムの木は約2m程度の高さまでは枝を落として樹液を採取しやすいようにしなさいとの説明をタウォルの人達にしていました。



また、接ぎ木をしないと良いゴムが取れないと説明し、芽接ぎのやり方をタウォルの人達に説明していました。接ぎ木の説明の後で、タウォルの人達が集まって芽接ぎの痕をよく観察していました。



ゴムの樹液の採取が始まっていました。受け皿はココナッツの殻を利用しています。これをペールに集めて出荷するとのことでした。流れ出る樹液は乳白色ですが、集めたものは黄ばんでいました。品質に変化がないのか確認するのを忘れませんでした。これから現金収入が多くなることを期待しています。

スララ町タラヒク村のゴムの木植林とミミズによる土づくり事業は、2010年度の緑の募金交付金により実施しました。2013年7月から始まった同じ緑の募金によるレイクセブ町3年継続事業(上記タウォルは3年目事業対象で6月末に完了)に、受益者組合の管理が行き届いているモデル事業地域として、タラヒクでの一日研修を組み込みました。最低6年を要する手入れの技術を学び、将来の実りへの意欲を高めることが目的です。(事務局・山崎)

雨期で活気づくアグロフォレストリー事業地域 (レイクセブ町南西部2件、共有地含む計60ha) モニター短信

タケヨン地区 (対象20世帯)

昨年10月に事業を開始したものの、深刻な干ばつで、苗木移植は雨期に入った6月に始まったばかりです。苗の入っていた黒いビニール袋を括り付けた支柱がなければ、コーンの間に埋もれた移植済ゴム苗に気づけなかったと思います。



タケヨン地区の受益者20名中10名と当団体モニターチーム、PPFスタッフ

ゴム等による収入が入るまでの数年間は、副業の籐細工やティナラク材料のアバカなどが収入源となります。籐は往復3日かかる村にしか残っていないためその買い付けで、父親が留守の家もありました。(三井物産環境基金助成2年目)



事業で支援したスコップを手に、共有地の整地作業に参加のエルアリスの母子

エルアリス地区 (対象20世帯)

2年前に地球環境基金でゴム苗木を植えたティヌオスに隣接のエルアリスに、20haは近い将来の収入源、ゴム・バナナ・コーヒーを植え、10haの急傾斜地にはナボルなど在来種の樹木を植える事業です。ティヌオスと同じく、ここでも先住民族学校ILSのアニータ先生が、「子どものために森を残そう」と父母への指導にも力を入れていて、私たちのモニター時には、共有地の整地に、みんなで汗を流していました。

(イオン環境財団助成)